

# さよなら'90

## 忘年会に乾杯



園生 三好 学

去る十二月十四日はあゆみ会主催の忘年会でした。今年は特に出来るだけ自分達の手でやろうということで、係の人達は何日も前から色々準備をなさっていたようです。職員の方々も、そのことを踏まえた上で、多大な御協力を下さったと聞いています。

園生の芥川さんの総合司会で会は始まりました。副園長先生のご挨拶に引き続き、出席者一同で乾杯です。今年のアトラクションは、会と同時進行で飛び入り結構というところで、まず最初は菅原寮母さんの見事な日本舞踊でした。考えてみれば、私達はほんの数年前まではお互いの存在さえも知らなかった者同志でした。それがこうして一同に集まって忘年会をしているのです。何だか運命の不思議な力を感じて感動を覚えました。

お酒の入った園生の楽しい歌に続いて、寮母さん達のユーモラスな「麦畑」の踊りで今年の忘年会は終わりました。私はこの職員の方々の心の暖かさが三惠ホームの最高の宝物だと思います。

## クリスマス会に招かれて

俳句クラブ講師 戒能多喜江

山沿いの径を曲ると「シャンシャン」とトナカいの牽く櫛の鈴の音が聴えてくる、そんな空想にかられる様な寒い日でした。会場は黒い幕で覆われていてまるで夜のようでした。「聖しこの夜」の曲に合わせて右に左に揺れるローソクの灯り、馬小屋の神子の誕生を祝福している様にさえ思われました。白い布の掛けられたテーブルには美しいケーキや飲物、厨房さん達の手作りの御馳走が沢山用意されている。賑やかにクラッカの音、シャンペンの音、メリークリスマス、クリスマスおめでとう！

今日だけとは、一張羅の服に身を飾った紳士淑女、家族会、ボランティアの方々皆んな嬉しそうでした。些かのワインのせいか輝いて見えました。

日本にキリスト教が伝わって来て久しいクリスマスは、現在宗教を越えての催しになりつつあります。

中近東では今、一つ間違えば大戦火もまぬがれない状態です。食糧不足、医療不足で苦しんでいる国の人々のいることを忘れて欲しない。アトラクションの歌も踊りも最適でした。この会がいつまでも続きます様に平和な世が続くことを祈っています。

## 餅搗大会に思う

園生 岡田 務

「寒搗や、日あたる窓のぬかぼこり」

この蕪洲の俳句にある様に、お餅は寒の内に搗くと穀象がわかないと言われています。当ホームでも毎年、年末になると地域交流を兼ねて、近所の保育園児を招待して餅搗大会が行われます。職員さんのうち年輩の方は慣れていますが、若い方になると、餅搗器の普及で本当の餅の搗き方を知らない人もいます。「餅搗」という字さえ書けない人もあるのではないかと思います。ましてや保育園の子供さん達はおさら、見た事がないと思います。ですから、当ホームにおける餅搗きの交流は意義深い事だと思います。園生や子供達が搗きたてのお餅を口にはおぼり、粉をいっぱい付け格好は滑稽でした。私の子供時代には堅くなった餅は水餅にし、かき餅や、あられを作って子供のおやつにしたものでした。今は金さえ出せば何でも手に入る時代なので、この様なおやつは珍らしくないでしょう。

毎年餅搗大会で、保育園児の満足そうな顔を見ると、私達も嬉しく思います。

又、来年が楽しみですよ。